

ニ類シ、組合會議ノ結成ハ最後ノ火花ノ如キモノデアルト警キマクツタ、私ハ一年後ノ今日此處ニ再ビ組合會議ヲ代表シテ御目ニ掛ル事ハ感慨ニ堪ヘナイカ今日ノ情勢デハ反動勢力ヲ撥ネ返シテ労働者ノ向フベキトコロハ労働組合ヲ措テ外ニナイコトヲ實踐ニ於テ明ニ示シ得タデハナイカ、先月海員組合ノ所屬シテ居ル I、T、F インターナショナル總主事エドヒウメン君ノ興味アル書簡カ來タ、其ノ書簡ニハ本日和蘭ノ新聞記事中東京通信トシテ日本政府ハ今迄ノ日本ノ労働組合ノ戦線ヲ制約シテ今後一ツノ國家的團體トシテ存在セシメ左右兩極ノ間ニ介在セシムル意圖デアアル、此ノ法案ハ目下内務省デ立案中デアアル十一月一日ノ閣議ニ採擇スルト言フデアアルガ果シテ事實デアルカト言ツテ來タ。私ハ若シサウ云フ法案ヲ日本政府ガ出スツモリナラバ日本労働組合會議ハ九月二十四日ノ第二回大會ヲ開催スル事ガ出來ナカツタデアロウシ其ノ大會ニカカゲタ「反動

勢力ヲ粉碎セヨ」ト云フスローガンノ如キモノモ撤回ヲ命ゼラレテ居ル筈デアアル。又海員組合ニ I・T・F ヲ脱退セヨト云フダロウガ嘗テ一度モ言ツテ來ナイ。大丈夫デアルト返事シタ。然シ、私ハ將來サウ言フ心配ガ絶對ニナイト言フ事ガ出來ナイ何物カラ感ゼザルヲ得ナイ。私ハ平素今日ノ齋藤内閣ハ、ヒットラーノナチス内閣ノ出現前ノ獨逸パーベン内閣ニ匹敵シテ居ルト思フ、齋藤内閣ノ次ニ來ルモノハ何者デアロウカ。從來ノ労働運動ハ堅固ナ城塞ニ立籠ツタ資本主義ノ陣營ニ向ツテ多少ノ武器シカ持タナイ弱イ力デ白兵戦ヲ挑ムニ等シカツタ、一步退イテ我々カ批判シタナラバ我々ハ組織ヲ固メナケレバナラナイ必要ヲ痛切ニ感ズルノデアアル、之レガ日本ノ労働組合ノ當面ノ任務デアアル、

全國労働カ熱心ニ提唱シタ地方協議會ハ速ニ組合會議ニ於テ實現化セシメ、協議會ノ第一ノ任務デアアル産業別戦線統一ノ理想